

いつもを、いつまでも。



新薬を、
笑顔で、
ともに未来へ。

COMPANY PROFILE

2025

私たちは人びとの健康を高め
満ち足りた笑顔あふれる 社会づくりに貢献します。

どんなに医学が進んでも、治療法のない病気に苦しむ人びとが
世界にはまだたくさんいます。最善の治療を模索する患者さんやご家族
そして医療関係者にとって、革新的な新薬は明日への勇気につながります。
私たちは、病気に悩む患者さんやご家族、そして健康な生活者、
全ての人びとの、かけがえのないいつもの笑顔に貢献し続けることを願い、
治療から未病や予防までを見つめ、これからも革新的な新薬の創出を目指します。

新薬を、笑顔を、ともに未来へ。

理念について ▶



<https://www.taiho.co.jp/company/philosophy/>

大鵬薬品ストーリーについて ▶



<https://www.taiho.co.jp/company/story/>



“すべきこと”を追い求め、製薬の力で笑顔あふれる社会を

大鵬薬品は1963年に設立以来、いつの時代も社員一人一人が“大鵬薬品としてすべきこと”は何かを考えて行動してきました。自宅で服用できる経口の抗がん剤がほとんど使われていなかった時代に、患者さんのQOLを考えて新たな経口抗がん剤を開発、信念を持って、その至適投与方法を探求し続けた日本の会社、これが大鵬薬品です。こうした歴史の一部を振り返っても、“すべきこと”の課題を粘り強く解決しながら仲間にはバトンをつないでいく文化が大鵬薬品の成長を支えてきました。これからも“すべきこと”をやり抜く力を持つ人財を育て続けることにより、さらなる成長を目指します。

「満ち足りた笑顔あふれる 社会づくりに貢献します。」は、企業理念の中で私が特に大切にしているフレーズです。さまざまな悩みを抱えている患者さんや生活者の皆さまの「笑顔」に貢献し、「いつも」の生活が「いつまでも」続くように、全世界の社員とともに、安心して使っていただける品質の高い優れた製品を世界中にお届けします。この活動を通して、人びとの健康に寄与する価値ある企業として存在感を高め、持続可能な社会の実現に向けて貢献してまいります。



代表取締役社長 Masayuki Kobayashi

小林将之



1960～1970年代

創業

1963年
代理店49社の出資の下、
大鵬薬品工業株式会社
を設立



医療用医薬品



1969年
「フトラフル」の導入
を契約
がん領域での研究
開発を開始

1980～2000年代

抗がん剤メーカーとしての地位確立



1984年
「ユ-エフティ」
発売



2010年
「アブラキサシ」
発売



1999年
「ティーエスワン」発売

2010年代～

グローバルなどの新たな市場への進出



2014年
「ロンサーフ」発売

2015年
「ロンサーフ」の海外展開開始。
現在、世界中の国と地域にて
承認



2023年
「リトゴビ」
米（2022年）・日・欧で承認



2024年
がんの治療と仕事の両立に関
する教育サービス「アリルジュ」
の販売を開始

コンシューマーヘルスケア

1964年
「チオピタ
ドリンク」
発売



1979年
「ソルマック」発売



2001年
「ハルンケア」発売



2017年
「ピタスのどトローチ」を発売

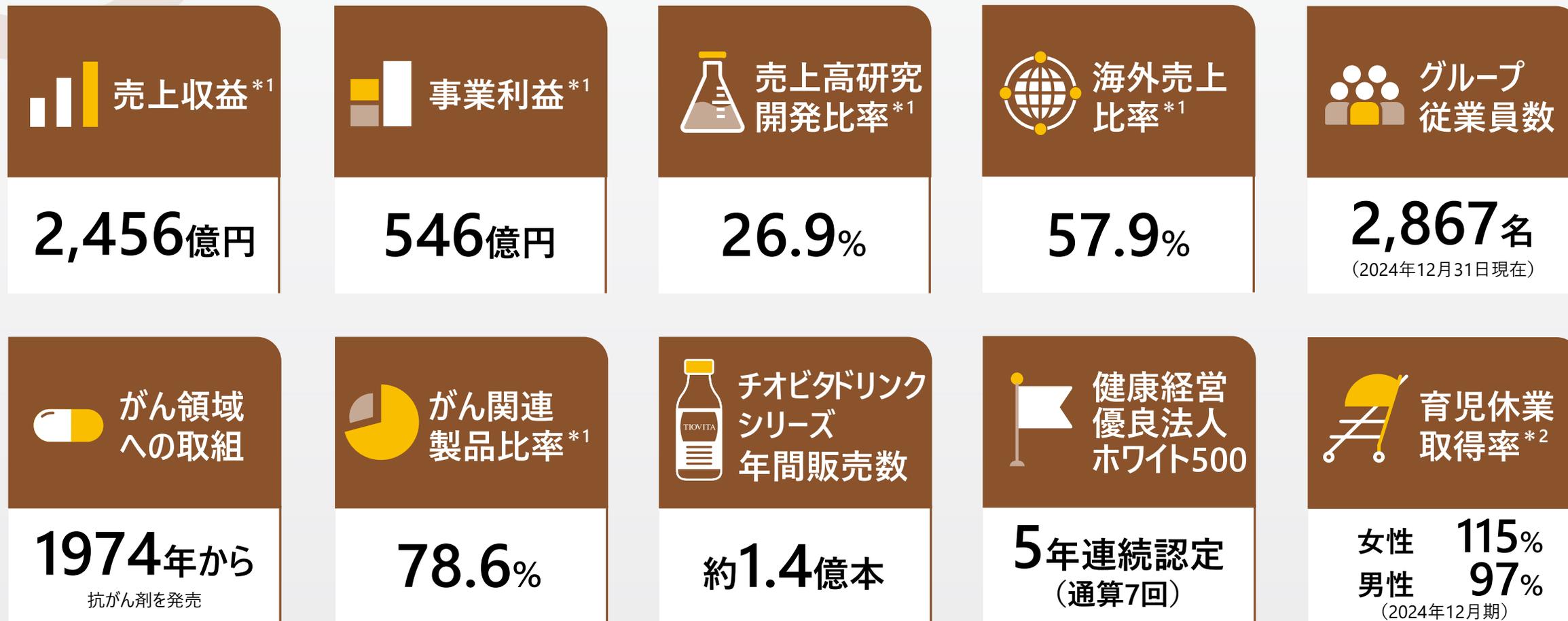


2021年
スイッチOTC「バップフォーレディ」発売



数字で見る大鵬薬品

大鵬薬品は、医療用医薬品事業とコンシューマーヘルスケア事業の2つの事業を展開しています。



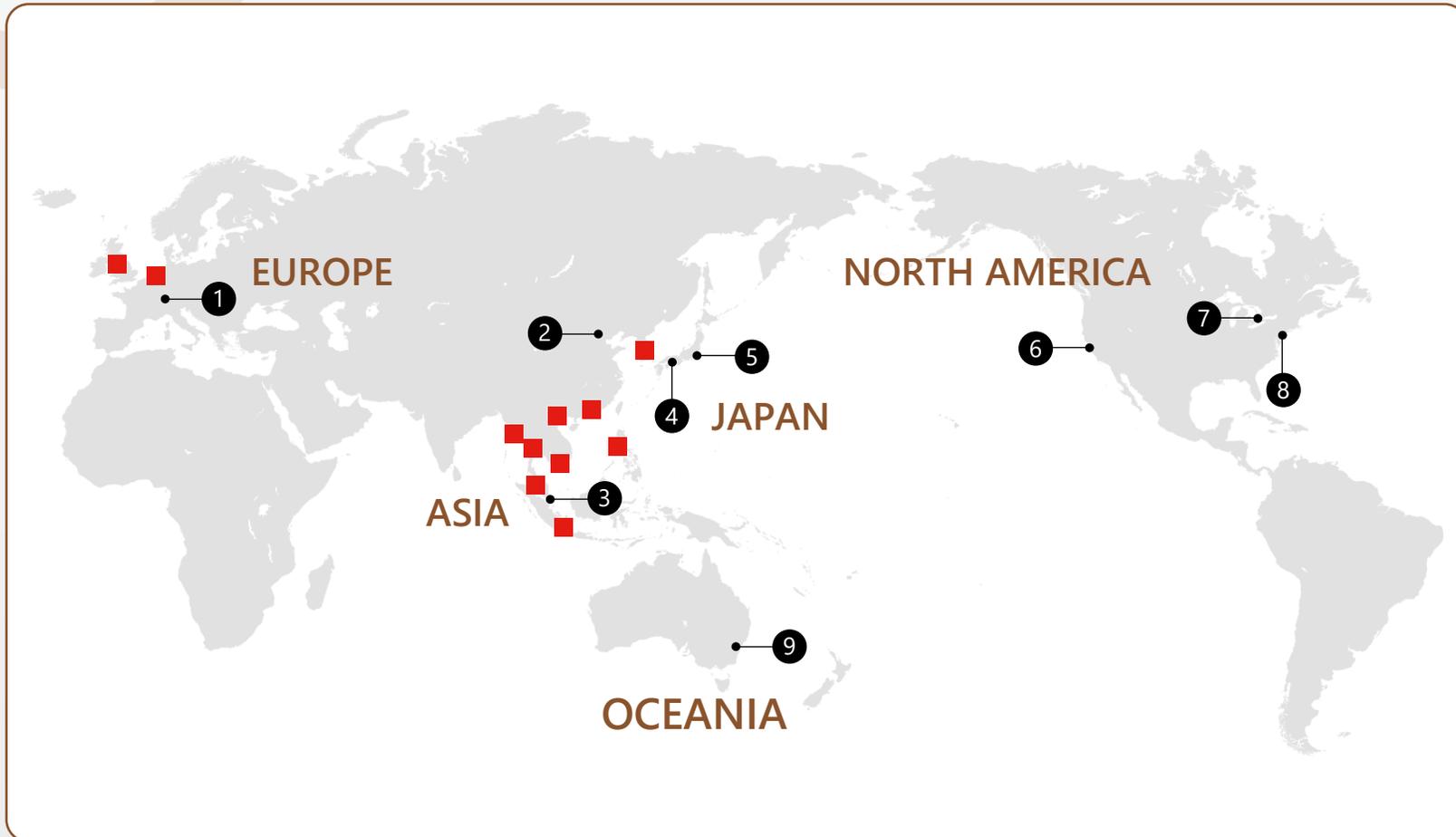
*1 連結ベース (2024年12月31日現在)。

*2 2024年12月期に子が生まれた人数を分母とし、育児休業を開始した人数を分子とする。前年に出産し2024年から育児休業を開始した社員を含む。男性の場合、短期間の育児休業取得者も含む。



グローバル化

世界から信頼されるスペシャリティファーマになることを目指し、大鵬薬品は米国・欧州・アジア・オセアニアなどの関係会社と協働しながら創薬分野における研究開発を推進。2025年3月時点で世界16カ国に拠点を置いています。



■ その他の活動拠点

主な関係会社

- 1 欧州における医薬品の臨床開発・販売
TAIHO ONCOLOGY EUROPE GMBH
- 2 中国の医薬品臨床開発・情報提供活動
大鵬药品信息咨询(北京)有限公司
- 3 アジア太平洋地域における販売・薬事・MA活動
TAIHO PHARMA ASIA PACIFIC PTE. LTD.
- 4 国内の医薬品、医薬部外品等の研究開発・製造・販売
岡山大鵬薬品株式会社
- 5 国内スタートアップのインキュベーションおよび投資
大鵬イノベーションズ合同会社
- 6 革新的な治療創製を支援するベンチャー投資
TAIHO VENTURES, LLC
- 7 カナダにおける医薬品の販売
TAIHO PHARMA CANADA, INC.
- 8 医薬品のグローバル臨床開発と米国における販売
TAIHO ONCOLOGY, INC.
- 9 オセアニア地域における販売・薬事・MA活動
TAIHO PHARMA OCEANIA PTY LTD



大鵬薬品は、グローバル市場において着実に事業を拡大しており、2024年には海外売上比率が約60%となりました。今後も、必要とする世界中の患者さんに適切に治療薬を届けることを目指し、グローバルでのプレゼンスを強化していきます。

EUROPE

大鵬薬品グループのグローバル展開：
欧州におけるがん治療の向上



Peter Foertig

General Manager
TAIHO ONCOLOGY EUROPE GMBH

2021年に設立したTaiho Oncology Europeは、欧州全域で革新的ながん治療を届けることに尽力しています。大鵬薬品グループの一員として、強固なメディカルまた販売組織を構築し、欧州の複数の国で経口抗がん剤FGFR阻害剤「フチバチニブ」の自社販売を開始しました。

日本の最先端の研究所に支えられながら、私たちはがん領域のポートフォリオを拡充し、医薬品の適正使用を推進しています。グローバルな連携と最先端の科学を通じて、がん治療の未来を切り拓き、患者さんやそのご家族、医療関係者の皆さまに希望と健康、そして笑顔をお届けすることに全力を尽くしてまいります。

ASIA

一人でも多くのアジア/オセアニアの
人びとに、画期的な新薬を届けたい



西村 吉雅

Managing Director
TAIHO PHARMA ASIA PACIFIC
PTE. LTD.

私たちは、“By Local. For Local”という共通のストーリーを掲げ、かつ大鵬薬品のグローバル活動の一翼を担っています。大鵬薬品が創製した画期的な新薬やユニークなコンシューマーヘルスケア商品を、アジアおよびオセアニア各国・地域の現地スタッフの手によって、同エリアの医療関係者や患者さん、そして生活者の皆さまに提供することを第一の使命としています。この地に暮らす一人でも多くの人びとに笑顔をお届けられるよう、現地スタッフ全員が一丸となって、日々全力を尽くしています。

NORTH AMERICA

がん領域においてグローバルでの
さらなる貢献を

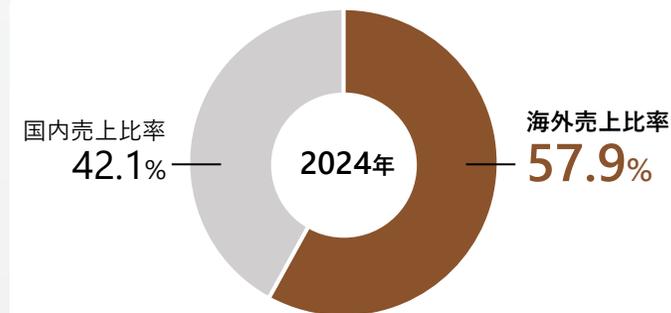


Tim Whitten

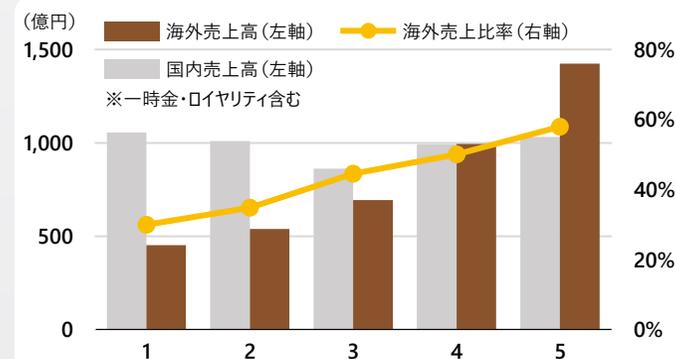
President & CEO
TAIHO ONCOLOGY, INC.

Taiho Oncologyは、固形がんと血液がんのさまざまながん種に対する抗がん剤の開発・販売を通じて、がん向き患者さんやそのご家族、医療関係者の皆さまの生活の向上に貢献することを使命としています。2002年以来、私たちはがん領域における科学的探究と専門性を追求し、日本の本社と連携しながら国境を越えて複数のがん種に対する経口抗がん剤の開発・販売において世界トップクラスの実績を築いてきました。米国ニュージャージー州プリンストンに本社を置くTaiho Oncologyは、固形がんおよび血液がんを対象とした抗がん剤のグローバル開発を担うとともに、北米および欧州での商業化を推進しています。

海外売上比率 (2024年)



海外売り上げの推移 (直近5年間)



海外拠点について ▶

<https://www.taiho.co.jp/company/global/>



2つの事業 医療用医薬品事業

～患者さんの生活の質を高め がん治療の未来を拓く～

創業初期の1960年代より手掛ける抗がん剤などの医療用医薬品。「フトラフル」を1974年に発売したことを皮切りに、次々と新薬を世に送り出してきました。中でも「ロンサーフ」は日本発の新薬として世界中の国と地域で販売しています。近年では、新たな創薬プラットフォームによる独創的な新薬の研究開発を行い、がん領域を中心に多くの新薬候補を生み出しています。一方、チーム医療を支える高度な情報提供能力を駆使し、患者さん一人一人の最適な治療に貢献できるよう育薬にも力を入れています。

大鵬薬品の医療用医薬品事業について



創薬

新薬候補となる新規物質を探索し、さまざまな試験で有効性と安全性の評価を行うこと



育薬

発売された後も多くの患者さんに実際に使われていく中で、安全性や有効性が繰り返しチェックされ、より安心できる薬へと育てていくこと



医療用医薬品事業について ▶

<https://www.taiho.co.jp/company/business/marketing/medical/>



独自の創薬プラットフォームを主軸に、革新的な新薬を生み出す創薬力が大鵬薬品の強みです。大塚グループの中では主に「がん領域」を担い、社外パートナーとも活発に協働しながら、難治性がんの治療薬創製に挑戦。がん研究で培った技術を応用し、「免疫関連疾患」の創薬研究も推進しています。

革新的な 新薬創出

重点領域



がん



免疫
関連疾患

自社創薬
プラットフォーム

ベンチャー企業や
スタートアップの
技術・創薬シーズ

アカデミアや
他社との
アライアンス

自社技術の補完と研究開発の加速を目指して国内外の研究機関と協働、さらにバイオベンチャー企業やアカデミア（大学・研究機関）と独自のネットワークを構築し、最先端の技術や創薬シーズの獲得に取り組んでいます。



大塚グループのがん事業を支える大鵬薬品

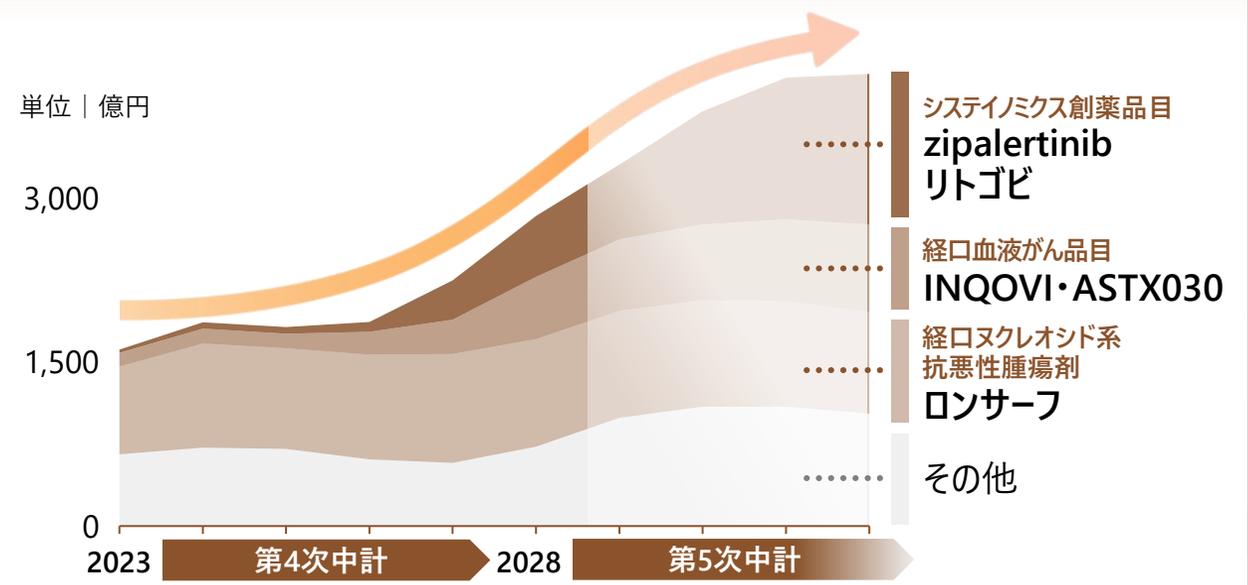
大鵬薬品は、大塚グループの医療関連事業におけるがん領域の中核を担い、「いつもを、いつまでも。」という想いのもと、治療の各ステージにおけるトータルな支援を通じて、世界中のがん患者さんの生活の質を向上させることを目指しています。大塚ホールディングス（以下、大塚HD）の第4次中期経営計画（2024～2028年）においては、がん領域が精神・神経領域に並ぶ医療関連事業の第2の収益の柱として、さらなる飛躍が期待されています。



がん患者さんジャーニー全体を支える

「いつもを、いつまでも。」を叶えるために

大塚HDの売上収益（ロイヤリティ収入除く）と今後の予測



大塚HD第4次中期経営計画 説明会資料より引用

大塚HD第4次中期経営計画について ▶

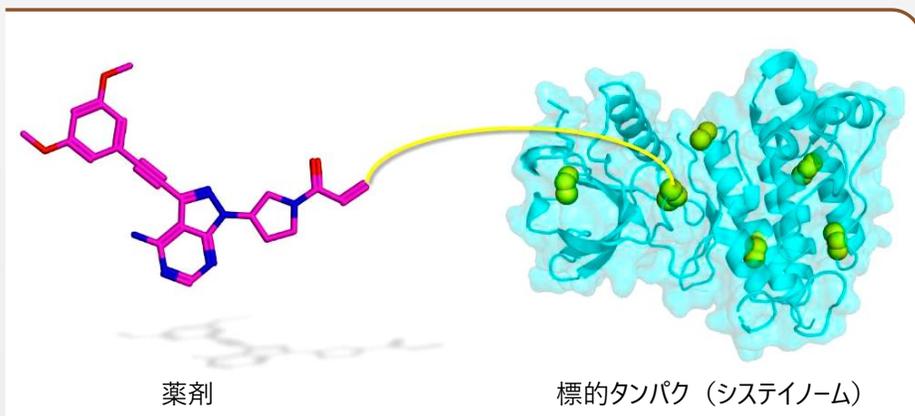
<https://www.otsuka.com/jp/ir/management/plan.html>





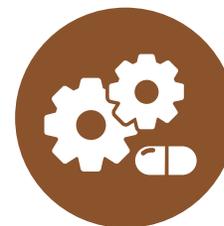
大鵬薬品では、創薬プラットフォームの整備と拡充に力を入れ、国際的評価も高い独自の「システイノミクス創薬」から創製された「フチバチニブ」が2022年に米国、2023年に日・欧で承認されるなど、これらプラットフォームを柱に数多くの開発パイプライン創製に成功しています。また、専門分野に関する豊富な知識や経験を持つ研究員同士の緊密な連携が、大鵬薬品の誇る高い自社創薬率を支えています。

システイノミクス創薬とは



「システイノミクス創薬」とは
標的タンパクのシステイン基に化合物を共有結合させ、強固な結合と高い標的選択性を可能とした大鵬薬品独自の創薬技術。
この技術により毒性の低減などの臨床メリットが期待できます。

創薬プラットフォームと専門性の融合で 高い自社創薬率



自社創薬品

14品目 (約63%)

(2025年3月時点)





大鵬薬品は2つのCVCを通じて、独創的な創薬シーズや革新的な創薬技術を持つ世界のベンチャー企業およびアカデミアへの積極的な投資と支援を行っています。

設立の目的

- 最先端創薬技術およびアセット（新規医薬品およびその候補品）への早期アクセス
- 投資を通じた事業提携・オープンイノベーションによる創薬推進
- 大学の基礎研究に基づくベンチャー設立支援

2つのコーポレートベンチャーキャピタル (CVC)

アメリカ 2016年設立



日本 2019年設立



CVCの役割

「Taiho Ventures, LLC」（投資資金枠4億米ドル）は、オンコロジー領域の創薬を中心に投資を行い、革新的なイノベーションにアクセスし、さらなる創薬力の強化を図っています

「大鵬イノベーションズ合同会社」（投資資金枠50億円）は、国内の医療関連領域、コンシューマーヘルスケア領域に加え、異業種との連携による新たなヘルスケア領域において、法人設立検討段階を含む早期ステージからの共創を目的に投資を行っています





大鵬薬品はアカデミアと連携、他社や公的研究機関との協業や業務提携により研究開発のスピードアップを図り、革新的な新薬の創出に挑戦しています。

アカデミアとの連携

高度な研究レベルのアカデミアと連携することで専門的な知見を共有し、創薬技術を高めています。また臨床ニーズを捉えた創薬を考える切り口や人財育成などにもつながっています。これらのメリットを生かし、難治性がんに対する治療薬などの臨床ニーズに応える創薬研究に取り組んでいます。



他社や公的研究機関との協業により、高度な専門性や研究リソースの活用が可能となり、がん領域を中心としたグローバルな研究、開発、商業化を加速しています。また自社創薬とのシナジーによって次世代に向けた革新的新薬の研究開発の可能性を広げています。

他社や公的研究機関との協業



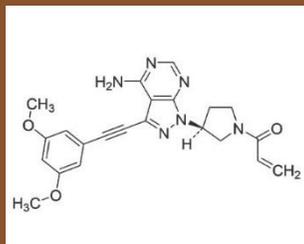
医薬品を創り出す製薬技術研究（CMC*1）について

～原薬・製剤の研究開発と品質確保を担う～

製薬技術研究は、創薬研究（創薬）と臨床開発（治験）、商用生産（医療現場への供給）をつなぐ、医薬品を創り出すうえで、なくてはならない大切な存在です。創薬研究で見つけた新薬候補を治験薬に創りあげる「CMC研究」、医療現場で使用する医薬品の商用の製法を確立する「生産技術」、商用製造された医薬品が確かな品質を備えていることを管理する「品質管理」といった、新薬創製から医療現場への供給まで一連の重要な工程を担っています。経口固形製剤は生産プラットフォームを内製化*2し、高い品質の確保と安定供給に努めています。

*1 CMC：Chemistry, Manufacturing and Control *2 外部委託製造も戦略的に活用しています

創薬研究で見つけた「新薬候補」



前臨床から商用までの高活性・グローバル対応「プラットフォーム」を完備

2つの事業 コンシューマーヘルスケア事業

～生活者の健康で愛情豊かな暮らしのために～

薬局・薬店、ドラッグストアで購入できるOTC（Over The Counter）医薬品などを取り扱うコンシューマーヘルスケア事業は、常に生活者中心に物事を考え、生活者に選ばれ続けるブランドづくりに挑戦しています。生活者の健康で愛情豊かな暮らしのために、独自性のあるモノ作りを目指す研究開発、生活者に届けるためのマーケティング活動、そして、対話を重視した営業活動を通し、コンシューマーヘルスケア事業はさまざまな分野から幅広く、皆さまの健康づくりに貢献しています。大鵬薬品の代表ブランドであるチオビタ・ドリンクは、数多くの生活者に支えていただき、2024年2月に60周年を迎えました。今後も長く親しまれるブランドを世に残していきたいと考えています。



生産拠点

主力工場である徳島工場を筆頭に、北島、埼玉、犬山の計4工場が連携しながら生産を行っています。いずれの工場もGMP*1基準を順守する万全な品質管理を実施。中でも北島、埼玉工場はFDA*2をはじめとした海外当局査察を経た国際水準を満たしており、徳島工場においても海外取引先からのGMP要求基準を満たしています。生命に関わる医薬品を安定供給する責務として災害などに備えた対策も行い、抗がん剤の供給については事業継続マネジメントの国際規格「ISO22301」を取得しています。

*1 GMP：Good Manufacturing Practice（医薬品および医薬部外品の製造管理および品質管理に関する基準）

*2 FDA：Food and Drug Administration（アメリカ食品医薬品局）

徳島工場

さまざまな剤形の医薬品・
医薬部外品を製造

埼玉工場

医薬品に使われる原薬
を製造

北島工場

グローバル生産拠点として
抗がん剤を製造

犬山工場

生薬製剤に使われる
原料を製造



生産拠点について ▶

<https://www.taiho.co.jp/company/business/production/>



主要製品 (医療用医薬品)



抗悪性腫瘍剤 **ロンサーフ®**



抗悪性腫瘍剤 **ティーエスワン®**



抗悪性腫瘍剤 **リトゴビ®**



抗悪性腫瘍剤 **アブラキサン®**



抗悪性腫瘍剤 **ジェセリ®**



抗悪性腫瘍剤 **ハイイタン®**



選択的NK₁受容体拮抗型制吐剤 **アロカリス®**



アレルギー性疾患治療剤 **ビラノア®**



主要商品 (コンシューマーヘルスケア商品)



ビタミン含有保健剤 チオビタ®・ドリンク



健胃清涼剤 ソルマック®.5



過活動膀胱治療薬 バップフォーレディ®



生薬製剤/軽い尿もれ・頻尿用薬
ハルンケア®内服液



外用鎮痛消炎薬 ゼノールシリーズ



生薬製剤/脂肪過多症・肝機能障害
扁鵲・肝生



口腔咽喉薬 ピタス®のどトローチシリーズ



鎮咳去痰薬 ピタス®せきトローチ



大鵬薬品は社員一人一人が心身ともに健康で生き活きと、自由闊達に働ける職場環境を目指しています。全社員が一丸となって健康維持と増進に取り組み、会社の生産性や業績の向上、イノベーションの創出や社会への貢献を目指した多様な活動を展開。そうした活動が評価され、2025年も「健康経営優良法人（ホワイト500）」に認定されました。



心身の健康 サポート

人間ドックや歯科検診など各種健診への費用補助などを実施



生活習慣・ 運動習慣サポート

運動アプリを用いたNew Style運動会などの運動イベントを開催



治療と仕事 の両立支援

がんに罹患した社員の就労支援など、治療と仕事の両立支援を推進



卒煙推進

2020年より卒煙施策を開始し、2023年は全社喫煙率0.3%を達成。現在も継続中。



有休取得推進

有休の取得を推進し、2023年より有休取得率80%以上を達成



DX（デジタルトランスフォーメーション）

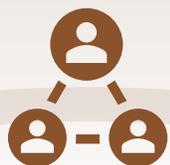
大鵬薬品は「More Transformation, More Chances」をDXビジョンに掲げ、デジタル変革に取り組んでいます。当社が社会に貢献し続けるために必須なのは、デジタルを活用しながらトランスフォーム(Transformation)していくこと。変革を進めることで生まれる新たな機会(Chances)をさらなる成長につなげます。

DX取り組み事例



創薬ロボット

新規化合物を合成するロボットの導入により、化合物ライブラリーの拡充と研究業務の自動化を実施。



全社DXイベント

DX推進の社内風土醸成等を目的に、全社規模のイベント Taiho DXG Dayを毎年開催。



内製 ハンズオン研修

「デジタル技術を活用できる人財の育成」等を目的とした研修で、ローコードツールを学び実務に役立つアプリを自ら開発。

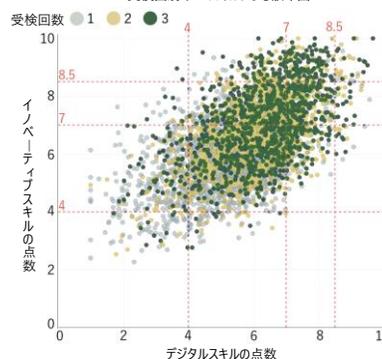
DXアセスメント&ラーニングによる人財育成

- DX人財** ▶ DとX両方を持ち合わせた人財
- D人財** ▶ 高度なデジタル活用、社内導入を行う人財
- X人財** ▶ 組織の変革を企画する人財
- G人財** ▶ リテラシーレベルのデジタルを使いこなす人財

1,600名弱がe-learningに取り組み、アセスメント結果で組織としての成長が認められた。

DXアセスメント結果

受検回別のDXスキルによる散布図



	1回目	2回目	3回目	通算	対初回比
DX	6	14	12	23	+17名
D	7	11	18	26	+19名
X	25	101	170	215	+190名
G	429	562	565	771	+342名
受検者	2,184	1,511	1,441	2,184	

対初回比
DXG人財
+568名

全社員の約50%がDXG人財



キャリア・風土

企業理念の実現に向け、社員それぞれの成長機会を大切にしている大鵬薬品では「キャリアデザインシート」を用いて、未来のキャリアについて上司とオープンに語り合う「キャリア対話」を実施しています。また、社内のキャリアコンサルタント有資格者による「キャリア相談」も可能。社内でも好評を博した他部署の業務を知ることができるオンライン社内交流プログラム「バーチャル部門訪問」が2023年に本格的に始動するなど、キャリア展開に関しても風通しのよい風土が魅力の一つです。

キャリアデザイン支援

キャリアデザインシート

自らをふりかえり、
これからの
キャリアを考える



キャリア対話

未来のキャリアについて
上司とオープンに
語り合う

キャリアデザイン ハンドブック

キャリアの考え方や
自己探索を
深めるヒントを掲載

キャリア相談

有資格者による
キャリア
コンサルティング

キャリアセミナー

キャリアの
セルフマネジメントを
学ぶ

バーチャル部門訪問

- 他部署を理解し、業務連携を深める
- 社員がつながる「場」をつくる
- 視野を広げ、キャリア自律を促進する

自部署の
役割・魅力
発信



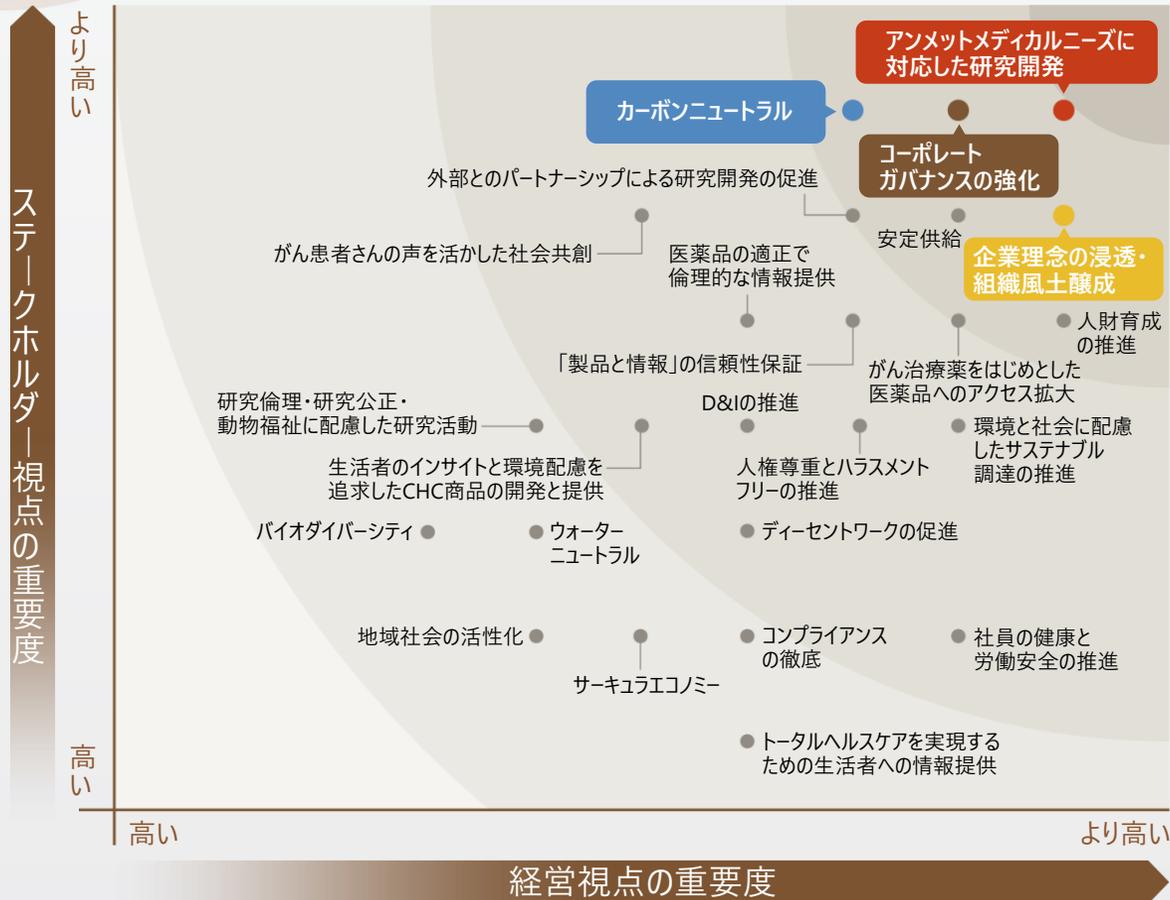
他部署の理解・視野拡大



大鵬薬品のマテリアリティ（重要課題）

大鵬薬品が取り組む社会課題を経営視点とステークホルダー視点で評価し、重要度の高いものをマテリアリティとして特定しました。
 これらのマテリアリティと中長期の成長戦略を一体化させてサステナブルな事業を推進すると同時に、事業を通じて社会課題を解決していきます。

大鵬薬品が取り組む社会課題の重要度マップ



事業を通じて社会課題を解決し、「いつもを、いつまでも。」を支える




マテリアリティ（重要課題）と貢献するSDGs・戦略

マテリアリティ（重要課題）

アンメットメディカル
ニーズに対応した
研究開発



コーポレート
ガバナンスの強化



企業理念の
浸透・組織風土
醸成



カーボンニュートラル



戦略

がん領域を中心としたアンメットメディカルニーズの充足に貢献し、世界中の患者さんに新薬と笑顔を届けるため、大鵬独自の創薬技術を主軸に研究・開発を推進し、バイオベンチャーへの投資やアカデミアとの連携を通じて、自社でアクセスが難しいモダリティや最先端のアイデア・技術を取り入れ、イノベーションを創出します。そして、大鵬薬品は、これからも革新的な新薬とソリューションを提供し続けます。

グローバルで事業環境が大きく変化するなか、信頼性保証・品質保証や安定供給などの経営リスクを低減するため、機能軸毎の連携・つながりを深め、リスクマネジメントを通じて、重要リスクが機能軸毎に共有・管理される体制を構築します。そして、大鵬薬品は、コーポレートガバナンス体制を継続的に見直し、強化します。

多様な価値観・意見・経験を掛けあわせ、イノベーションを起こす生命関連企業であり続けるため、ステークホルダーと対話し、すべきことを考え、行動する大鵬マインド・行動規範を浸透・継承します。そして、大鵬薬品は、社会の変化を成長の糧にでき、文化・人種・ジェンダー・病など一人一人の違いや人権を尊重できる人財を育成します。

気候変動に伴う自然災害や社会問題のリスクを低減するため、脱炭素につながる施策の実施や環境配慮型資材の導入などを行います。そして、大鵬薬品は、パリ協定で定められた国際的な目標・指標に基づいた事業活動におけるすべての環境負荷をゼロにするという大塚グループ2050年環境ビジョン「ネットゼロ」を目指します。



いつもを、いつまでも。

あたり前のようにつづく毎日ほど、

かけがえのないものはない。

私たちは、“いつも”を支える力になりたい。

大切な“いつも”が失われた時、

強く取り戻す力を届けたい。

いつもを、いつまでも。

私たち大鵬薬品ひとりひとりの願いです。



会社名	大鵬薬品工業株式会社
設立	1963年（昭和38年）6月1日
資本金	2億円
代表者	代表取締役社長 小林 将之
従業員数	2,145名 （単体、2024年12月31日現在）
売上高	2,205億円 （単体、2024年12月期）
事業所	本社／東京 支店、営業拠点／全国11カ所 出張所、事業所／全国45カ所 工場／全国4カ所 研究所／つくば（茨城）、徳島
本社所在地	〒101-8444 東京都千代田区神田錦町1-27 TEL 03-3294-4527
事業内容	医薬品、医薬部外品、医療機器、食料品、日用品雑貨などの製造、販売及び輸出入



— 大塚グループ企業理念

Otsuka-people creating new products for better health worldwide

世界の人々の健康に貢献する革新的な製品を創造する



— 概要

大塚グループは、1921年に創業し、世界の人々の健康への貢献を目的に、疾病の診断から治療までを担う「医療関連事業」と日々の健康の維持・増進をサポートする「ニュートラシューティカルズ*1 関連事業」の2本柱で事業を展開しています。歴代の経営者が育んできた「流汗悟道」「実証」「創造性」という大塚の伝統を受け継ぎ、現在では世界32カ国・地域、174社で約35,000人*2の社員が、大塚らしいユニークな製品・サービスを提供し続けるため活動を行っています。

*1. ニュートラシューティカルズ：Nutraceuticals = nutrition (栄養) + pharmaceuticals (医薬品)

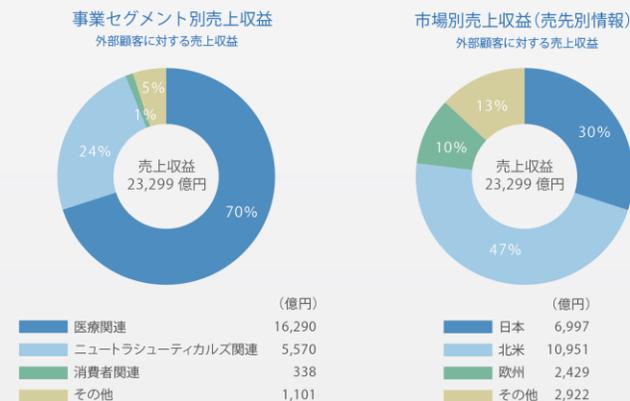
*2. 2024年12月末現在。大塚ホールディングスおよびその連結子会社

— グループ構成



会社名	大塚ホールディングス株式会社 (Otsuka Holdings Co., Ltd.)
設立	2008年7月8日
代表取締役社長 兼 CEO	井上 眞 (いのうえ まこと)
資本金	816億90百万円
本社	東京都千代田区神田司町2-9
事業内容	グループの経営戦略、管理ならびに事業専門サービスの提供

— 財務内容
(2024年度)



— サステナビリティミッション

大塚グループは、企業理念のもと、事業を通じた社会課題の解決に取り組み、自らの持続的な成長と健康でサステナブルな社会の実現を目指します。

サステナブルな社会の実現に貢献

